

# MOVING

北九州市立男女共同参画センター  
ムーブ情報誌 ムービング

vol.48

特集

シリーズへ企業のトップに聞く  
キーポイントは「人財育成」  
—(株)井筒屋・社員が誇りをもてる企業を目指して—

▶CONTENTS

北九州市長ごあいさつ

男女協働実践企業表彰5周年記念  
受賞者リレートーク & 記念講演

“ムーブ”事業案内

読上講座 2007年問題と女性のチャレンジ  
第1回「団塊問題は、実は女性問題である」  
北村 節子(読売新聞東京本社 調査研究本部 主任研究員)

(財)アジア女性交流・研究フォーラム(KFAW)  
からのお知らせ

平成19年度 ジェンダー問題調査・  
研究支援事業募集について

“ムーブ”新刊本のご案内

男女共同参画推進部からのお知らせ

レディスもじ・レディスやはた  
からのお知らせ



## 特集

シリーズ「企業のトップに聞く」

## キーポイントは「人財育成」

—(株)井筒屋・社員が誇りを持てる企業をめざして—

シリーズ「企業のトップに聞く」の第2回は、北九州の百貨店として長年地域の人々に親しまれ、また、現在「人財育成」に力を入れるなど、社員が誇りを持てる企業作りに取り組んでおられる、株式会社 井筒屋 代表取締役 社長執行役員 江本幸二氏にお話を伺いました。

## ■ 繁栄を支える「秩序」と「奉仕」

**羽瀬川** 70年以上にわたり、地域に根ざした百貨店として事業を開拓してこられた井筒屋さんですが、基本となる経営理念をお聞かせください。

**江 本** 私どもでは「秩序」を一番大事にしています。「秩序の上に立つ創造的繁栄」ということで、地域の皆様のご協力をいただきつつ、一緒に新しいものを創っていくという姿勢を大事にしています。また、実践的な心構えとしては「奉仕」ですね。「奉仕こそ繁栄の基」であり、お客様のニーズに向けて井筒屋がどういう形で奉仕できるか、それが大事だと思っています。



株式会社井筒屋 代表取締役 社長執行役員 江本幸二氏

## ■ 「人財育成」にかける思い

**羽瀬川** 井筒屋さんでは「人材」ではなく「人財」であるという観点から「人財育成」に取り組まれ、平成16年には販売のプロフェッショナルの育成を目指した「西日本リテールカレッジ」を開校されました。そういった「人財育成」についてはどのようにお考えですか?

**江 本** まず、ただ物を売る販売員ではなく、豊かな商品知識を持ち、きめ細かな接客やサービスができる実力を兼ね備えた究極の販売スペシャリストの育成を目的に作ったのが、「西日本リテールカレッジ」です。この学校では実学にウェイトを置いており、百貨店の中で実際に商売人としての実践と経験を積めるほか、販売に役立つ語学も取り入れています。すべて「販売」ということに目線を置いたカリキュラムになっています。

また学校のコンセプトとして、入学するのは厳しいが、卒業する

ときには卒業証書というよりも就職証書を渡そうという基本姿勢があります。そこには北九州の人間が全国の色々な業界に自信を持って出て行けるよう、また、そこで活躍できるような人材を育てたいという強い思いが根底にあります。

**羽瀬川** 大変広い視野に基づいた事業ですね。井筒屋さんはずっと以前から、女性が活躍できる環境づくりに力を入れておられます。平成12年には新人事制度を導入されて、人事やそれにともなう風土の活性化を図られたとお伺いしております。そういったことを含めたこれまでの女性の活躍推進の取り組みや、成果、また課題などをお聞かせください。

**江 本** 平成12年度に行った新人事制度については、それまでいわゆる主任、課長、部長というような職の等級制度1本だったものを、職の等級制度と役割責任制度という2本の軸を作ったわけです。これによって階級が低くても、高い役割につけるようになりました。例えば今までしたら、部長=ゼネラルマネージャーといったイメージがありましたら、いわゆる課長級の職階でもゼネラルマネージャーになれるというようにです。つまり、若手もしくは女性の登用を図るために基礎固めを制度上でつくったわけです。女性を登用する場合、まだ現時点では女性は就職してから勤続年数が少ないうちにやめてしまう場合がありますから、そういうことも加味しながら、ある程度のキャリアでセールスマネージャーとかバイヤーなどに就けるように制度を変えたわけです。

昨年の5月に社長になったときの公約の一つに、3年間で女性の管理職、もしくはそういったフロア責任者等の女性の比率を20%にしようということがあります。今年の3月からスタートした今期は、幹部会議に出席する59名のうち女性の幹部職員が11名、全体の18.64%になっています。

**羽瀬川** 具体的な取り組みが始まっているわけですね。

**江 本** はい。成果が出るのは今からだと思います。問題点としては、販売フロアの各階ほとんどに女性の責任者がいますが、現場の売り場の中で育ててきているので、経営的な数字について若干勉強不足という面があることです。そういった点を改善するために、専門の講師を招いて集中的にセミナーをするなど、女性の登用と同時にフォローアップ体制を整えることによって両面から強くしていくことを考えています。そうすることで、より一層女性に自信がつくと思



# 受賞者リレートーク&記念講演



●平成19年2月24日(土) 13:30~16:00 5階大セミナールーム

平成14年に発足した「男女協働のための北九州企業懇親会」は、「ムーブ」を事務局として、男女がともに働きやすい職場環境づくりに向けた事業を展開してきました。その一環として男女共同参画の実現に向けて取り組んでいる企業、個人を表彰する「男女協働実践企業表彰」は今年度で5周年を迎えました。そこで受賞者リレートークと記念講演を実施し、これから男女共同参画社会実現に向けてどのような活動を進めていけばいいのかということを考えました。

## ▼受賞者リレートーク 13:30~14:30

### ★ 株式会社エルダーサービス (チーフケアマネージャー 石松三枝子)



#### \* 平成14年度 女性従業員の活用部門 \*

現在は北九州市、福岡市、さらに関東地区と、19事業所で介護を中心とした事業展開をされています。石松氏は「地域ナンバーワン、オンラインの介護サービスを提供していくために人材は欠かせないとお話しされました。実力主義というジェンダーを超えた一つの社会的な認識により、人材育成に力を注ぎ、マンパワーの強化を目標にした研修などの取り組みをされています。

### ★ 北九州駅弁当株式会社 (執行役員製造部長 西秀隆)



#### \* 平成14年度 女性従業員の活用部門 \*

西氏は「女性の一番すごいところは忍耐力ですね」と「女性が頑張ることについて述べられました。能力のあるものや、指導力のあるものが上をいく一方で、まだまだ能力がある人でも女性というだけで難しいところがたくさんあると感じているそうです。また今後の課題として企業の若返り化と作業効率のバランスもお話し下さいました。

### ★ 北九州市消防局 (人事企画課人事係長 正代狂一)



#### \* 平成15年度 研修部門 \*

研修の他に、組織的な女性の職域拡大についての取り組みも積極的に行われています。女性消防吏員や、女性救急隊員が活躍し、消防指令センターでも女性が交代性勤務の24時間体制で勤務するという状況は、既に消防業務においては欠かせないものとなっています。今後女性の職域拡大について正代氏は「様々な意見を考慮して、いかにして市民サービスを向上していくのか、将来的な視点を踏まえて検討していく必要がある」とお話しされました。

### ★ 財団法人小倉地区医療協会 三軒野病院 (看護部長 高橋素子)



#### \* 平成16年度 企業・事業所部門～ひと味ちがう我が社の取り組み 取り組み賞 \*

「当病院では現在7対1という日本で最高の看護配置をクリアできたのは、看護師の方々が育児休業を取りやすくさらに復帰しやすい環境を整えるなど、子育て支援に力を入れたことが大きかったのでは」と話されました。職場復帰前と後に3日間の研修をしており、復帰後の研修は全師長が関わり、「みんなが待ってたよ」というアピールで迎えて行っているとのことです。その他にも家族を含めたイベントを開催するなど、皆で家族を支えるような環境づくりをされています。

### ★ 株式会社不動産中央情報センター (総務課長 大松篤子)



#### \* 平成16年度 企業・事業所部門～ひと味ちがう我が社の取り組み 奨励賞 \*

女性の意見を取り入れた形でのシステム作りを行うなど、男性的イメージが強い不動産業のイメージ改革に挑戦されています。受賞されてから現在までの3年間で、女性の管理職が4名から9名に増えました。この要因の一つに、女性の力を生かしたいと、人事制度を改訂したことがあるそうです。大松氏は「これからも男女お互いの意見をお部屋作りに生かして、誰でも気軽に立ち寄っていただける不動産会社を作っていくたい」とお話しされました。



★ 医療法人寿芳会 芳野病院 (院長 芳野元)

\*平成17年度 企業・事業所部門 ~ひと味ちがう我が社の取り組み\*

これまで従業員による職場環境改善提案会議や、従業員満足度調査により、「子育て応援宣言」、「7時間の常勤制度」を取り入れてきました。このように、従業員によって作られた会議による提案が、トップによってすぐに実行されることで、柔軟に変更し働きやすい職場を作っています。芳野氏は20年前にアメリカで2年間留学していた経験を交えて、「従業員の満足度を高めるというのは非常に重要なことだ」とお話しされました。



★ 安部 高子 株式会社ケイ・ビー・エス代表取締役社長

\*平成17年度 個人部門 ベストボス～輝く女性像\*

社会で人に認められるには、まず「物事を何にでも正真正銘、真正面に取り組んでやる気があること」が大切であり、その後は「能力」の競争となり、さらに「気力」「体力」が必要となるとお話しされました。また社会で生きるということはどういうことかを得てする人たちは、やはりそこでは能力を出すことを惜しません。そのため株式会社ケイ・ビー・エスではこの能力を出すためにスタッフ全員に研修を義務づけて、実施されているそうです。



★ 迎 康子 NHKラジオ深夜便アンカー (受賞当時: NHK北九州放送局チーフアナウンサー)

\*平成17年度 個人部門 ベストボス～輝く女性像\*

迎氏は「ベストボス賞」の受賞理由を、「自分ができることを精一杯やってきて、その積み重ねが評価されたのではないか」とお話しされました。今回のリレートークでもやはり地道に時間をかけて努力するということが、世界を広げていくことにつながるのではないか、と思われたそうです。女性が仕事を続けることへのサポート体制や、周囲の理解がかなり進んできた感じ、「一歩一歩できることを拡大しながら、そういう取り組みを紹介していきたい」と今後の展望をお話しされました。



リレートーク紹評 コーディネーター 鹿島貞之 男女協働のための北九州企業連絡会議会長/北九州市立大学教授

今回の受賞者全体のお話、それから対象の企業を見るとどの職場も実力、能力を重視する、ということがわかりました。実は能力ないし実力に焦点を当てると、男女の境目はなくなるのです。

今、重厚長大型の時代から、ソフトサービス型の時代に変わっていきます。経済自体が女性を求めている時代状況です。また社会が高齢化・少子化に進んでいく。そうすると、女性がどのように働きやすい職場を作り上げるかということは日本経済・社会の大きな課題になってきています。社会が実は女性を求めている、というこの認識に立って男女共同参画というものを見つめていきたいと考えております。

▼記念講演 14:30~16:00

## 記念講演

### 「少子高齢時代のワーク／ライフ・バランス ～働き方の変革と仕事＆生活の共存に向けて～」

講師: バク・ジョン・スックチャ  
(アバシオナタ, Inc. 代表、ワーク／ライフ・コンサルタント)

リレートークに引き続き、記念講演が開催されました。

一般的に「ワーク／ライフ・バランス」と言うと「女性のための仕事と家庭の両立支援」と思われるがちですが、「ワーク／ライフ・バランス」の本質は「性別や年齢に関係なく働く人すべての問題であって、いかに状況の変化に対応するか」であるということを現在の社会・経済情勢や働く人々など様々な背景を交えてお話しされました。

途中自己のワーク・バランス状況を把握するために、表を使った演習も行われ、受講者の多くは自分のワーク・バランスの理想と現実にギャップのある結果が出ていたようでした。

バク氏は「ビジネス環境が変わっているので働き方を変えて、新しい発想が必要となります。自分の仕事しかしていないと何も見えてきません。よりよい仕事をするために人間関係、肉体、精神、そして、知性など、仕事以外の側面を定期的に磨いてください」と述べ、参加者にそれぞれのワーク・ライフ・バランスの変革を呼びかけました。

(敬称略)









# Xin Chào ~こんにちはベトナム~



グローバル化が進む現代、小中学生の国際的な感覚を育む、異文化理解を助けるため、(財)アジア女性交流・研究フォーラムでは、その国の概要や子どもたちの生活を紹介する国際理解教材ビデオを制作しています。

中国や韓国、フィリピンやマレーシアなどこれまで8カ国のビデオを制作してきましたが、今回新しくベトナム編を制作することとなりました。ベトナムと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか?「ベトナム戦争」や「ポートビーブル」を思い浮かべる方もおられれば、民族衣装の「アオザイ」、陶器やバックといった「ベトナム難民」、生春巻きなどの「ベトナム料理」を思い浮かべる方もおられるでしょう。ベトナムの首都はハノイ。漢字で「河内」と書くのは、この街が紅河デルタ内にあることに由来しています。河と河の間にあるから「河内」というわけです。完成に向けて作業が進むビデオの制作現場では、驚くべき発見が色々とあるようです。現地で取材したベトナムの情報を少しだけご紹介します。



ベトナムの原民の足と言えば何と言つてもバイク。2人乗りは当たり前。このような3人乗りもあまり珍しくありません。また4人乗りさえ見かけることがあります。



ベトナムの通貨はドン、1万ドンがなんと日本円で74円位。0の多さにびっくりしてしまいます。1万ドンで、これだけのお菓子を買うことができました。



これは肘について授業を受けているのではありません。ベトナムでは、発表をするときは、このように手を挙げるのです。



小学校の授業では、ノートではなく、小さな黒板とチョークが使われることもあります。



最近日本にはベトナムから多くのエビやイカといった水産物、靴や衣料品などが輸入され、私たちは知らず知らずのうちに多くのベトナム製品に接しています。また、ベトナムを訪れる日本人も30万人を超えて、ベトナムを訪れる外国人のほぼ1割を占めるまでになっています。現在制作中のビデオの中では、世界遺産に登録されているハロン湾や世界的にも有名なメコンデルタなどの観光地はもちろん、ベトナムの文化や現地にしっかりと根を下ろしている日本企業の様子、ベトナムの子どもたちの生活の様子や、ベトナム戦争中に散布された枯葉剤の影響で障害を持つ子どもたちの施設も紹介していく予定です。ビデオの完成予定は今年の7月。今後には、このビデオを観ながらベトナムについての理解を深める講座も予定しています。ビデオの完成と講座の開催まで少しづらくお待ちください。

このページに関する  
お問い合わせは  
KFAWまでどうぞ



KYOTO FORUM ON ASIAN WOMEN  
「アジア女性交流・研究フォーラム」

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4 北九州市大手町ビル3F  
TEL093-583-3434 FAX093-583-5195  
E-mail kfaw@kfaw.or.jp http://www.kfaw.or.jp





